

校長室だより

杉並区立向陽中学校
4月号 平成31年4月20日発行
校長 菅野武彦

「人間賛歌が響き渡る学校づくり」を目指して

【今年度のキーワード】

「チーム向陽 ～組織対応・説明責任～」

◇ 平成31年度「学校経営計画」をお知らせします。

1 はじめに

□私達がしっかりと目を向けなければならないところ、それは「子どもたちがこれから生きていく社会」です。子どもたちが社会に出るときは、今では想像もできない大きな変化が待ち受けているでしょう。より多様化し、国際化している社会で、挑戦し、失敗をバネにしながらか力強く生きていく力が必要になるでしょう。激変する社会で、力強く自立し、生き抜く子どもたちを育成するため、学校は変わらなければなりません。確かに、要領よく、短期間に与えられた範囲を理解し、テストでいい点数を取る能力を身に付けることにも意味はあります。しかし、10年後、20年後を考えたときに、短いスパンでどれだけ知識を覚えたかを測ることは、あまり意味のないことのように思われます。既存の知識はインターネットで簡単に手に入ります。これからは、既存の知識を使って、新しい知恵を生み出す力がより重要になってくるのです。たとえ大学入試が変わらなくても、確実に変わっていくものがあります。それはIoTや人工知能の発達に伴って変わる、社会や仕事のありようです。国（文部科学省）はこれまでになく、この社会の変化に敏感になっています。その結果として、一昨年3月、新学習指導要領がこれまでにない形で示されました。そのキーワードが「主体的・対話的で深い学び」です。

□生徒には「がんばれ！自分。私がやる！」の実践を迫りたいと思います。様々な場面で自分を鼓舞し前向きに取り組める向陽中生に育て、『自分軸』の形成と『自立的に活動できる生徒・集団』の育成をよろしくお願いします。私の学校経営の目指すところは、「教職員が気持ちと力を合わせ、生徒一人一人の命を輝かせ成長を図ること」、そして、その結果として「向陽中学校の生徒を見てください！」と言えることです。生徒の教育に欠かせないものとして、保護者・地域（学校運営協議会・学校支援本部）・小学校の教職員、そして私たち教職員といった“大人側の結束”があります。私は校長としてこの結束を図る中心的役割を果たしていきたいと思います。

□この1年間の学校経営のキーワードは、「チーム向陽～組織対応・説明責任～」です。「チーム向陽」はその名のとおり、向陽中学校の教職員がチームワークを大切に力を合わせることで、副題の「組織対応・説明責任」は、昨年度の学校の課題と私自身の猛省から来

ています。その名のとおり、学校が組織的に対応することと、生徒・保護者・地域等に対してしっかりと説明しその責任を果たすことです。この1年、「チーム向陽～組織対応・説明責任～」を全教職員での共有と実践をよろしくお願いいたします。

□子どもの教育の原点は「子どもに関心を持つこと、子どもにかかわること」であることを大人が肝に銘じましょう。「生徒の声に耳を傾け、生徒の心を開かせ、生徒の心に響く」指導を全員で実践しましょう。そして、人として生きることの素晴らしさを伝えてほしいと思います。生徒の成長を飲む「人間賛歌」を一緒に歌いましょう。

2 教育目標（◎が今年度の重点）

◎よく考える人 ○思いやりのある人 ○たくましい人

3 めざす生徒像

「自立的に活動できる生徒」

○能動的に学ぶ・活動する ○対話的に学び考えを深める ○よりよい人間関係をつくる

4 めざす学校像

生徒の成長を約束する学校

(1) 生徒の笑顔と友情、そして活力あふれる向陽中学校

授業で先生方の最高のパフォーマンスを！

- ① 生徒同士の関わりを有効な手立てとした生徒の能動的で対話的な授業をつくる。
- ② 生徒が課題解決学習を通して「分かった！なるほど！できた！」を実感できる。
- ③ 生徒が笑顔で元気よくあいさつする姿、来校者にあいさつする姿を演出する。
- ④ 生徒が学校行事で活力あふれる姿を披露できるよう指導する。

(2) 「生きるって素晴らしいな！」人間賛歌が響き渡る向陽中学校

大人が生き生きと生きる姿を見せましょう！

- ① 「生きること＝人との関わり」であることを生き生きとした姿で生徒に手本を示す。
- ② 生徒に“私がやる！”の気持ちで能動的に活動させ、成就感と一体感を味わわせる。
- ③ 全員で「生徒の声に耳を傾け、生徒の心を開かせ、心に響く指導」を実践する。
- ④ 全員で『平成31年度生活指導基本方針』を基に生徒指導に当たる。

(3) 生徒も大人もみんながかかわり、誇りと生きがいを感じる向陽中学校

人を教え導くことへの責任感と真摯な態度！

- ① 生徒一人一人に公平に接すること、共感的態度で指導に当たることが鉄則です。
- ② 生徒に要求することは教職員が大人として率先垂範する。
- ③ 教職員は家庭・地域（学校運営協議会・学校支援本部）・小学校の教職員と連携を図る。
- ④ 教職員は自分の強みや持ち味を大いに発揮し、「チーム向陽 ～組織対応・説明責任～」を共有し実践する。

(4) 高井戸第三小学校と永福小学校の児童があこがれる向陽中学校

“人を愛し、人から愛される子”を育てる！

- ① “子どもは地域の宝物”・“学校は地域の宝物”を学校・家庭・地域が共有する。
- ② 生徒が安心して生活できる安全な環境を整えることは学校の重要な役割です。
- ③ 小学生の「向陽中学校への期待」が膨らむ小中一貫教育を推進する。
- ④ 小中教員の「知り合う→分かり合う→生かし合う」関係づくりを推進する。

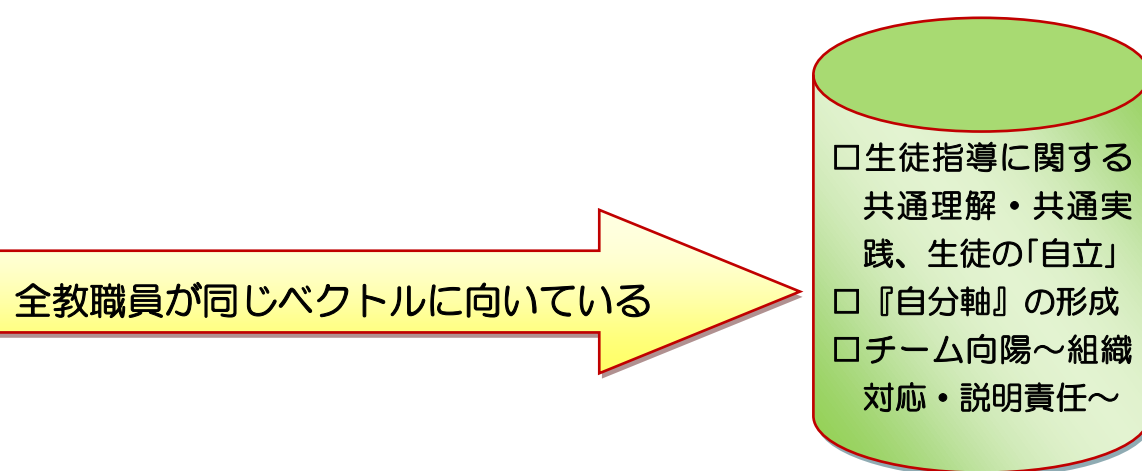
5 保護者・地域・小学校との連携（地域運営学校として）

- (1) 生徒の基本的な生活習慣及び学習習慣の確立、そして健全育成については、保護者・地域・関係機関との十分な連携を図る。
- (2) 保護者・地域への学校公開を通して、教育活動に対する意見や要望を受信するとともに、学校だよりや学年だより等による教育活動の発信を行う。
- (3) 学校経営の発信（校長室だより）及び学習指導計画・評価計画の公表、また学校評価アンケートの結果及び改善策の公表等を通して、学校の説明責任を果たす。
- (4) 学校支援の立場で活動しているPTA活動との連携及び協働を推進する。
- (5) 学校支援本部や学校運営協議会との連携による学習支援及び活動支援により生徒の学びを深める。
- (6) 高井戸第三小学校及び永福小学校との連携・交流により生徒のよりよい成長を図る。

6 学校運営方針

- (1) 学年や分掌組織のチームワークを大切にし、学校全体として組織的・機能的な学校運営を行う。
- (2) P（計画）→D（実施）→C（評価）→A（改善）サイクルによる学校運営・組織運営を行う。
- (3) 個人として、
 - ア 当事者意識をもって、自己の役割と責任を果たし、「やるべきこと」から逃げない。
 - イ 生徒とともに活動する姿勢、率先垂範する姿勢を堅持する。
 - ウ 自己の強みを十分に生かすとともに、課題にも正対し改善する自己研修を行う。特に、「主体的・対話的で深い学び」の授業実践の研究に能動的に取り組む。
 - エ 常に『平成31年度生活指導基本方針』に戻って再確認する。
- (4) 組織として、
 - ア 誰もが「報告・連絡・相談」をしやすい教職員集団にする。
 - イ 誰にも得手・不得手がある。お互いをカバーし合い、支え合える教職員集団にする。

- ウ 一人一人が自らの力量を十分に発揮し、切磋琢磨する中で教育活動が展開されるよう、「チーム向陽 ～組織対応・説明責任～」を肝に銘じる。
- エ 生徒や学校の様子を保護者・地域に伝えるとともに、学校の考えや姿勢を示す保護者・地域への学校公開及び情報提供を重視する。
- オ 生徒が参加する校外の行事やボランティア活動に学校として積極的に関わる。
- カ 組織運営で大切なことは、
 - 「仕事分担、役割を明確にすること」
 - 「自己の責任を果たすこと（何を、いつまで、どのように、どうするか）」
 - 「常に先を見通した計画・立案に心がけること」
 - 「分掌や学年、委員会、教科部会の中に協力体制を築くこと」です。



7 今年度の計画（学校経営の重点）

- (1) 平成31年度教育課程届を基に教育活動を実践する。特に、教育目標「◎よく考える人 ○思いやりのある人 ○たくましい人」の具現化を図る。
- (2) 1年間の学校生活目標を学期毎に示すことにより、1年間での生徒の成長を実感できるようにする。そのために、「心に響く指導！」と「わかる指導！」を土台として、生徒の集団力を高める。
 - 年間を通して「自立的に活動できる生徒になろう！」「自分軸を形成しよう！」
 - 第1学期「明るい向陽を創ろう！」
 - 第2学期「たくましい向陽を創ろう！」
 - 第3学期「誇りある向陽を創ろう！」
- (3) 生徒会の自主的な取り組み「いじめ0%5か条」を学校全体に広め、学校が和やかで温かな雰囲気になれるようにする。また、生徒会・各委員会活動が生徒の手による自立的な活動になるよう支援する。
- (4) 重点目標と方策

- 向陽中生を『自立した学習者』に育てるために
- 挑戦に伴う成功や失敗の経験を十分に積ませる。
 - 自らの行動や活動の選択能力を磨く主体性に重点を置く。
 - “何も考えずに当たり前のようにやる生徒”の意識を変える。
 - “自分で考えないで指示待ちのみで人のせいにする生徒”の意識を変える。

- ① **〔学習指導〕【重点】** 目標：生徒を『自立した学習者』に育てる。生徒の自己評価「私は自分で課題を見つけ、進んで勉強するようになった」の肯定率を70.0%以上にする。

そのために、2年間取り組んだ教育課題研究の成果(4人組グループ学習)を生かし、生徒が「能動的」・「対話的」に深く学ぶ授業に変えるとともに、生徒が「なぜ」を考え、「なるほど」を実感できる授業を実践する。また、できるだけ1時間の授業を「生徒の自力解決・グループでの協働解決・学級全体の一斉検証」という3つの活動で構成し実践する。(よく考える人)

- ② **〔家庭学習〕** 目標：生徒を『自立した学習者』に育てる。生徒の自己評価「私はこの1年間で家庭学習に取り組む習慣が身に付いた」の肯定率を60%以上にする。

※学校の授業以外の場面や場所で学習することを「家庭学習」と定義する。

そのために、必然性を伴う宿題や定期考査前の学習にしっかりと取り組ませる。特に、1年生では、「宿題ボード」を活用した宿題の見える化により、宿題に取り組む習慣を身に付けさせる。また、生徒に「自己選択と結果責任」を自覚させ、自発的な予習や復習などの家庭学習をうながす。(よく考える人)

- ③ **〔特別の教科 道徳〕** 目標：生徒を『自立した学習者』に育てる。生徒の自己評価「私は道徳の授業で自ら考え、その考えを発信するとともに友達と対話することができた」の肯定率を75%以上にする。

そのために、生徒が“考え対話する”授業を実践する。その際、「4人組グループ学習」を活用し、生徒の“発信・受信・共感・気づき”などをうながすとともにその様子を見取り、適切な評価につなげる。(よく考える人)

- ④ **〔生活指導〕【重点】** 目標：誰もが安心して学べる、いじめのない向陽中学校にする。生徒の自己評価「私は4月当初に比べ、他人を思いやったり、他人に感謝したりするようになってきている」の肯定率を85.0%以上にする。(思いやりのある人)

そのために、生徒同士の良好な人間関係や集団生活を阻害する「わがまま・いじり・嫌がらせ」をさせない指導を徹底する。また、様々な機会や場面を通して、生徒に“こんにちは”等のあいさつや、“ありがとう”・“ごめんなさい”等を日常的に言えるよう指導する。さらに、お互いさまの精神で困っている生徒に手を差し伸べる指導をする。

- ⑤ **〔いじめ対応〕【重点】** 目標：いじめを早期に発見し、組織的な対応と解決を図り、生徒・保護者に対する説明責任を果たす。(組織対応)

そのために、いじめがあった時には、管理職への報告後、いじめ防止対策委員会で対応策を検討し、学級担任、学年体制、いじめ防止対策委員会を中心に学校全体で組織的に対応する。また、いじめ・不登校生徒に関する情報は企画委員会と職員会議で毎回確認を行う(平成31年度生活指導基本方針)。

- ⑥〔**自立的な活動**〕目標：生徒に「がんばれ！自分。私がやる！」を求め、自らの課題に向き合わせ、自力で解決する力を身に付けさせる。生徒の自己評価「私は4月当初に比べ、自分に向き合ったり、自主的に行動したりして、たくましくなっている」の肯定率を85.0%以上にする。(たくましい人)

そのために、学級活動・行事・部活動・委員会活動等の場面で、生徒に「がんばれ！自分。私がやる！」を求め実践を迫る。また、毎日生活する学級集団のなかで、生徒一人一人が自己の役割を果たしたり、学級全員で学級の課題を解決したりして、自己有用感を持たせ、自力で課題を解決する学級集団にする。

- ⑦〔**ボランティア活動**〕目標：生徒にボランティアマインドを身に付けさせ、自らボランティア活動に参加するよう呼びかける。生徒の自己評価「私は4月以降、学校や地域でのボランティア活動に参加したことがある」の肯定率を70.0%以上にする。

そのために、生徒が自ら捜してボランティア活動を行うよう指導するとともに、学校が紹介する地域等でのボランティア活動に参加するよう指導する。また、ボランティア活動を行った生徒名等を1階掲示板で知らせる。【**継続2年目**】

- ⑧〔**チーム向陽**〕【**重点**】目標：スローガン「チーム向陽～組織対応・説明責任～」の下、教職員がチームワークを発揮して組織的に対応し、生徒・保護者・地域等に対して説明責任を果たす。

【**組織対応**】そのために、教職員一人一人が「向陽中生を成長させたい、向陽中をよくしたい！」という当事者意識をもって職務に当たる。また、自己の役割と責任を果たすとともに、個人プレーではなく組織プレーの仕事をする。さらに、教職員間の「報告・連絡・相談」を密に取り合い、風通しのよい「チーム向陽」にする。

【**説明責任**】そのために、○4月、教育課程説明会で教科の「評価・評定」について説明する。また、各教科担当者は各学期の「評価・評定」について生徒に説明する。

○学級や学年の指導方針や生徒の様子等については、保護者会や学年だより等で保護者に伝える。また、生徒指導等にかかわる保護者への対応は丁寧に行い理解を得る。さらに、学校の方針や考え、生徒の様子等については、保護者会や向陽だより、校長室だより等で説明する。

○第3学年の進路指導では、生徒・保護者との十分な相談機会と情報提供に努める。

- ⑨〔**保護者・地域との連携**〕目標：「地域と共に歩む向陽中学校」を推進する。

【**保護者との連携**】そのために、「保護者による部活動見守り制度」を継続し、顧問が不在でも部活動ができる、外試合等の生徒引率ができるようにする。顧問不在時の活動の責任者は校長とする。【**継続2年目**】

【**地域との連携**】そのために、○土曜授業において、卒業生や地域人材を活用した授業を行うに当たり、各学年が必要とする人材を明確にして学校運営協議会や学校支援本部と連携を図る。また、学校運営協議会、学校支援本部、K S C C (向陽スポーツ文化ク

ラブ)、「Cafe 勉」を主催する「ふくぷくひろば実行委員会」との連携により生徒の学びをより深める。

⑩【教職員の働き方改革】目標：個人として全校として働き方改革を実感する。

【個人】そのために、働き方改革の第一歩は「自分で決めること」が大切である。毎日の出勤時間と退勤時間を自分で決め実践する。

【全体】そのために、○働き方改革の第一歩「自分で決めること」を認め合う風土をつくる。○保護者との連携による「保護者による部活動見守り制度」を活用する。○今年度より「保護者会2回削減、総合学習発表会・母校訪問・教育相談週間・自己評価表・教育課程自己評価の廃止、展示発表会の規模縮小、朝の短時間学習の活用、生徒会誌雑木林の編集変更」を行う。○見直しができることは年度途中であっても見直しを行う。

学校関係者評価

向陽中学校学校関係者評価委員会

教員・生徒の評価・満足度が低下しましたが、校長に依る自己評価を概ね妥当と判断しました。

評価委員会に於ける個別課題の指摘・意見・助言は次のとおりです。(数字は校長自己評価番号)

来年度計画への反映が期待されます。

(1)1年生の生徒に依る評価が授業を含め大きく低下しました。担当教員への一層のサポートが求められます。

(1)「家庭学習」も計数上低下し、教員の声を加味して評価していますが、「家庭学習」の定義を改めて明確にする必要が有ります。

また、宿題の平準化策の提案が過去にされていますが結果について言及が必要でした。

(3)「いじめ」については学校側の対応に課題が残っています。具体性を欠く「防止基本方針」を早急に改訂して下さい。

また、SNS問題は学校が把握する限界が有りますが、リテラシー教育をしっかりと行うことは必要でしょう。

(4)「自立した学習者」として、土曜授業で「受けたい授業」を生徒が求める形も検討しては如何でしょうか。

(6)「地域連携」では部活動・授業で外部人材が出来ることを具体的に明示し、一層協力出来るようにして下さい。

(7)教員自身が主体にならなければ「働き方改革」は進みません。教員の目で見ても要らない或いは減らせないかと感じる作業を出し合って一つずつ潰して行くことも必要かと感じます。

また、生徒の最終下校時間を18:00に戻しては如何でしょうか。

<その他>

- ・生徒からのアンケートが多いとの指摘に対しては学校・協議会合わせてご検討下さい。
- ・自由意見欄での声には別途関係者に対応をお願い致します。
- ・地域向けアンケートNo.21は文面の修正をして下さい。

「計画」についての要請

評価対象とする「計画項目」を絞り込み且つ具体的施策のみにして頂きたいと考えます。